

1 教壇に立つ心構え

- (1) 威儀を正し、常に新鮮な気持ちで授業に臨む。
- (2) 授業中における生徒指導に心掛ける。
 - ・ 授業中の教師の言葉がけ一つで子供の心が揺れ動く。細心の注意を払って授業に臨む。
- (3) 児童生徒の創造性を伸ばす。
 - ・ 既成のものにとらわれず、価値ある新しいものを生み出す論理的な思考力、想像力、直感力を育てる。どの子にもその子がもつよさ（その子らしさ、特技など）があるものである。そのよさを見つけ、認め、励ましていくことで個性を育てる。
- (4) 授業に厳しさを求める。
 - ・ 教えることにも学ぶことにも真剣に取り組む。

2 授業の計画と教材研究

- (1) 児童生徒の実態把握
 - ・ 児童生徒一人一人の習得している知識・理解、学習意欲等の実態をはっきりつかんでおく。また、指導する単元・題材等の目標・ねらいにかかわって「関心・意欲・態度」「思考・判断」「技能・表現」「知識・理解」などの観点から実態を把握し、目標・ねらいを達成するための手だてを考える。
- (2) 充実した指導計画の立案
 - ・ 単元・題材の目標及び各時間のねらいを具体的に考える。
- (3) 教材研究の徹底
 - ・ 学習過程・発問・教材のよさなどについて十分に研究する。

3 授業の組み立て

- (1) 基本的な指導の流れ
 - 導入
 - a 児童生徒の習得している知識・理解を生かす。
 - b 児童生徒にとって、学習内容が新しい経験であるかどうかを確認する。
 - c 本時のねらいを具体化する。
 - 展開
 - a 児童生徒に新しい学習経験をさせ、学習内容の徹底と拡充・発展を図る。
 - b 指導、学習、評価の三つの活動を互いに関連させ、活発な学習活動になるようにする。
 - 終末
 - a 展開段階における学習内容のまとめと定着を図る。
 - b 本時の学習成果を次時に発展させるよう児童生徒の意欲を喚起する。

* 指導の流れについては、教材や児童生徒の実態に応じ、弾力的な授業構想を練ることが必要である。
- (2) 学習形態
 - ア 一斉学習 イ グループ学習 ウ 個別学習
 - ・ 指導の目標、教材、児童生徒の実態等に即して学習形態を選択し、組み立て、1時間の授業が児童生徒一人一人にとって効果的な学習時間となるように配慮することが大切である。
- (3) 指導方法の類型
 - ア 学習課題の把握と課題解決の筋道を児童生徒が構成し、解決させていく方法
 - イ 教師と児童生徒との問答を中心とする方法
 - ウ 児童生徒同士の討議を中心とする方法効果的にねらいが達成できる
 - エ 一定の訓練や練習・ドリルを中心とする方法よう、適宜組み合わせる。
 - オ 観察・実験・実習、調査・調べ学習を中心とする方法
 - カ 教師の説明や講義を中心とする方法

4 指導の技術

(1) 板書及びノート指導

〈板書〉

- ① 板書計画を立てる。(板書量に留意)
- ② 文字ははっきりていねいに書く。
- ③ 誤字、脱字、筆順、かなづかいに注意する。
- ④ 色チョークは意図的・効果的に使用する。
- ⑤ ノート、発問との関連を考える。
- ⑥ 授業の整理段階で活用する。
- ⑦ 児童生徒の発達段階を考慮する。
- ⑧ 黒板の反射や、見づらい位置の児童生徒に配慮する。
- ⑨ 児童生徒による書き込みのスペースやノートの指導にも配慮する。

〈ノート指導〉

- ① 学年、教科に適したノートを使用させる。
- ② 書く時間、内容に配慮する。
- ③ 考えながら書く習慣が身に付くよう配慮する。
- ④ 正しく、美しく書くようにさせる。
- ⑤ 文字の大きさ、濃さに注意させる。
- ⑥ ノート使用の工夫と点検に配慮する。
- ⑦ 顔と手の距離を30cm程度離れた姿勢で書かせる。
- ⑧ 児童生徒の書写能力を把握する。(書く速さ、正確さ、時間等)

(2) 発問

① 内容

- ア 思いつきでなく、学習のねらいと過程に即して、一連の深まりのあるもの。
- イ 二者択一でなく、一問多答となるもの。
- ウ 児童生徒の思考にあったもの。

② 方法

- ア 明確な言葉で簡潔に、できるだけ1回で伝える。
 - ・ 「その」「あの」「この」等が多いと思考が混乱する。
- イ タイミング
 - ・ 場の雰囲気と学習の流れ、児童生徒の動きに応じて心にひびく発問
- ウ 間のととり方
 - ・ 間をきめるのは発問の質と児童生徒の状態(できるだけ30秒以上間をおく。)

5 個に応じた指導

児童生徒はそれぞれ発達の差異や能力・適性、興味・関心、性格、進路、学習経験等が異なつ無理が通れば道理が引込んでいる。このような児童生徒一人一人の特性等を理解し、学習内容を確実に身に付けることができるようにするために、個に応じた指導を行うことが大切である。

個に応じた指導方法については、指導計画の工夫、教材・教具の工夫、複数の教材の準備、学習形態の工夫など多方面にわたる対応が必要である。個に応じた指導は、すべての児童生徒を対象とするが、特に学習につまずきのある児童生徒の指導は、次の点に留意して進めることが大切である。

- ・ 遅れの原因を知る
- ・ 学習に意欲をもたせ、よい点を認めてほめる
- ・ 助け合い学習をさせる
- ・ 学習の方法を知らせ、励ます
- ・ 失敗や誤りがあってもその子なりの努力を認める